

# NEWS RELEASE

2015年5月13日  
コベルコ建機株式会社

## コベルコ建機 2015年3月期 決算概要

### 【2014年度の建設機械業界の概況と決算データ】

国内の建設機械市場（国内は年度）は、老朽化インフラの工事、東京オリンピック関連工事、ビル建て替えなどの都市のリノベーション投資、東日本大震災の震災復興工事などの底堅い需要はあったものの、大手レンタルユーザー向けを中心に油圧ショベル需要が一巡し、前年までの駆け込み需要の反動が色濃くでたことにより、2014年度の油圧ショベルの総需要は重機ショベルで前年比2割強減少しました。一方、排ガス規制の影響が少なく、都市部の生活関連工事などが堅調であったミニショベルでは前年比1割増加しました。

海外の建設機械市場（海外は暦年）は、先進国市場である北米、欧州市場は比較的堅調に推移したものの、中国や新興国は大幅に減少しました。

北米市場は住宅建設やインフラ整備などが穏やかに回復し重機ショベルの総需は前年比で増、ミニショベルは2割増となりました。欧州市場は一部、弱含みの地域はあるものの底打ちから回復へ向かい、重機ショベルで前年比微増、ミニショベルは1割強増加するなど、先進国市場は底堅く推移しました。

世界最大の油圧ショベル市場である中国市場に関しては、鉱山などの資源関連の低迷、目玉となる公共工事が少なく低調に推移し、重機ショベルは2割減、ミニショベルは1割強減少しました。重機・ミニを合わせた中国油圧ショベルの総需要は2割弱減少しました。

東南アジア諸国は、ミャンマーやフィリピンなど総需が拡大し好調な国もありましたが、資源関連の需要の低迷、通貨下落によるインフレ懸念や政治的混乱などのマイナス要因によりインドネシア市場の低迷に代表されるように全体として低調に推移しました。このため、東南アジア全体の油圧ショベルの総需要は前年比で2割弱減少しました。

世界の総需要を概括すると、重機ショベルは20.6万台で前年比1割強減少、ミニショベルは14万台となり、前年比微増となりました。

2014年度はコベルコ建機グループの中期経営計画<2013~2015年度>の中間年度となりました。国内の更新需要の一巡、中国、東南アジアなど新興国の不振など不安要素もありましたが、再進出した欧米市場での市場開拓が着実に進み五日市工場、大垣工場とも生産能力を上回る水準でフル生産を続けました。本年1月には当初計画を1年前倒しする形で北米に生産工場を建設することを決断いたしました。今後とも全世界においてコベルコのブランド価値を最大化すべくきめ細かな活動を推進してまいります。

会社を取り巻く市場環境、事業環境は激動の1年でしたが、グループ丸となった取り組みにより、2015年3月期（2014年4月~2015年3月）の業績は、以下の通りとなりました。

<2015年3月期の実績>

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連 結	当期（2014年度）	311,008 (▲2.3%)	28,903 (+17.7%)	21,012 (+39.0%)	19,310 (+23.0%)
	前期（2013年度）	318,217	24,561	15,119	15,699

連結の売上高は、国内事業が1,218億円（前年比▲11.9%）、海外事業が1,892億円（前年比+5.2%）、連結売上高の海外比率は60.8%となり、連結で海外売上比率が前年比増となりました。（過去3カ年の海外売上高比率11年：67.7%、12年：60.0%、13年：56.6%）

## 【2014年度のコベルコ建機の事業別状況】

### ■ 国内事業

国内は、前年までの駆け込み需要の反動もありレンタル業界向けの更新需要が一巡した状況となりましたが、一般ユーザー向け販売にも注力し需要の下振れの影響を最小限にとどめました。その結果2014年度の国内のコベルコ建機グループの油圧ショベル販売台数は重機ショベルは前年比2割減少し、ミニショベルは1割弱増加しました。

中古車市場は、国内での良質な中古機の発生量が減少していることに加え、主な輸出先である中国や東南アジア市場の低迷などにより低調に推移しました。

生産状況に関しては国内の需要減、中国、東南アジアの低迷などは有ったものの、2013年から再進出を果たした欧米での受注拡大もあり、重機ショベルを生産している五日市工場とミニショベルを生産している大垣工場は、フル生産体制を維持しました。またビル建て替えなどの都市のリノベーション工事が活発化しており解体工事向け大型ショベルの生産能力の拡充にむけ、大型建機の設備能力増強を実施、本年5月から本格的な稼働を開始します。国内の2工場を世界最高水準の生産性とコスト競争力を持った生産拠点にしていくと共に、生産改革をリードしてきたグローバルエンジニアリングセンター（GEC）の活動を更に拡充させ、グローバルな開発・生産体制の構築を進めていきます。

### ■ 欧米事業

一昨年、10年ぶりに再進出した米州地域と欧州地域では順調に販売網の構築が進展しました。

北米現地法人 KCMU (KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY U.S.A. INC.) は、販売網の拡大に伴い、増加するサービス部品のニーズに対応すべく充実した部品倉庫機能を有する新本社に昨年9月末に移転しました。また本年1月には米国サウスカロライナ州に北米工場建設を決定し、来年1月から稼働を開始する予定です。米国に生産拠点を持つことで北米のユーザーニーズをより一層取り込みながら市場への浸透を目指してまいります。尚、北米工場の建設により五日市の生産余力が確保できるため欧州地域には引き続き日本の五日市工場から重機ショベルの供給を継続します。

米州、欧州地域ともコベルコブランドに対する期待感が根強く順調に販売台数を伸ばし、通年の重機シェアも着実に向上しています。安定的な市場である欧米市場でのプレゼンスの向上が、重機グローバルシェア10%の達成と真のグローバルカンパニーへと繋がると考えており、引き続き市場開拓に注力してまいります。

### ■ 中国事業

中国は、鉱山向け需要が引き続き冷え込んでいる他、各地の公共事業が認可されても執行が遅れるなど全般的に低調に推移しました。コベルコ建機グループでは厳しい市場動向が続く中、安易な価格政策とは一定の距離を置き、債権管理などに留意しながら慎重な事業運営を行いました。メニュー別では都市部の生活工事を中心としたミニショベルに注力するなど慎重な事業活動を展開いたしました。結果、今期（1-12月）の販売台数は、前年同期と比べ重機ショベルで1割強減少、ミニショベルは3割強増加となり、重機、ミニを合わせた中国の通期の総販売台数は、前年同期比1割弱の減少となりました。

総需要が大幅に下落している中で、落ち幅を最小限にとどめシェアも向上しました。

足下の状況は需要の冷え込み傾向が顕著となっており、需要の低迷が反転する兆しが見えない厳しい状況となっています。

### ■ APAC地域他 海外事業

APACエリアは全体的に低調に推移しました。中国経済低迷の影響に加え共通しているのは通貨下落、インフレ傾向が恒常化するなど経済低迷が根底にあり、建設機械市場も厳しい環境が続きました。その結果、通期（1-12月）の東南アジア全体の重機ショベルの総需要は、前年同期比で2割弱減少し、当社の販売は3割減少しました。インドは、総需要が1割弱減少しましたが、高性能機であるハイエンド市場は底堅く、当社の販売は1割弱増加しました。

足下、APACエリアは依然として低迷状態にあり、先行き不透明な状況が続くと予想しています。経済基盤が脆弱なこともあり予断を許さない状況になってきています。

## 【2015年度の重点課題と通期見通しについて】

### ＜2015年度 総需要予想＞

日本については、更新需要が一巡しており需要は引き続き前年比で減少すると予想しています。中国は、大型インフラ投資プロジェクトの進捗遅延が続いていることから、ユーザーの設備投資意欲が低く、需要は前年比更に減少すると予想されます。東南アジアは最大の需要国であるインドネシアの需要回復がポイントになります。インフラ投資期待があるものの鉱山需要が大きく低迷していることと、通貨安・インフレ懸念が継続している事などから他社との競争が更に激しくなることが予想されます。タイでは政治的混乱が収束したことから少しずつ落ち着きを取り戻してくると予想しています。このような状況から、東南アジア全体の需要としては、昨年並みになると見込まれます。

米国は、住宅建設は引き続き堅調であるものの、原油安の影響によりシェールオイル・シェールガス開発に陰りが見えてきており関連する需要が低迷、全体的に伸びは一服感が出てきており、需要は前年並みと想定されます。欧州は、主要国を中心に景気回復の兆しはあるものの、南欧の低迷などにより、建設機械市場は前年比、若干低下すると見込んでいます。

### ＜2015年度の重点課題＞

中期経営計画の最終年として、事業環境の変化への感度を高め中期の重点課題を確実に実行して強靱な事業体の構築に向け体質強化を推進してまいります。具体的には情報化戦略の推進、部品事業の強化、沼田工場の再編推進、大型機生産能力増強と解体機需要の取り込み、北米工場の円滑な立ち上げなどに取り組んでまいります。

当社はチャレンジャーという立場にあり、市場でのプレゼンスを一層高めていくために競合他社との更なる差別化を追求していくことが大切だと考えています。事業課題を一つ一つ整理し検討を加え、次期中期経営計画を本年度中に策定いたします。

### ＜2015年度通期の見通し＞

新規参入した北米地域、欧州地域での販売が本格化してくるものの、国内は駆け込み需要の反動の影響が今年も継続することが予想され、また中国、東南アジア地域も低迷が続くことから、全体としては低調に推移すると予想しています。新興国が低調なことから中国、タイなどでの生産は低迷するものの、国内で重機ショベルを生産している五日市工場とミニショベルを生産している大垣工場は、引き続きフル生産体制が継続する見込みです。これらの結果、2015年度の通期見通しは下記のように予想しています。

{単位：百万円、（ ）内は前年度比}

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2015年度 通期連結見通し	315,000 (+1.3%)	27,000 (▲6.6%)	20,000 (▲4.8%)	13,500 (▲30.1%)
当期連結実績	311,008	28,903	21,012	19,310

(2015年度通期における為替レート前提： 1米ドル=120円、1ユーロ=135円 )

\*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

以上

**コベルコ建機株式会社**

## 平成27年3月期 決算業績概要

会社名	コベルコ建機株式会社	TEL : 03 (5789) 2111
代表者	代表取締役社長	藤岡 純
問合せ先責任者	企画管理部長	細見 浩之
親会社名	株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率: 96%)	
	神鋼商事株式会社 (当社株式の保有比率: 4%)	

## 1. 平成27年3月期の連結業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	311,008	△ 2.3	28,903	17.7	21,012	39.0	19,310	23.0
26年3月期	318,217	18.8	24,561	93.8	15,119	120.6	15,699	490.8

	1株当たり当期純利益
	円 銭
27年3月期	60 34
26年3月期	49 06

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期	455,401	136,327	22.6
26年3月期	443,124	104,039	16.9

## 2. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
連結(通期)	315,000	1.3	27,000	△ 6.6	20,000	△ 4.8	13,500	△ 30.1

\*上記の予想は、現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて作成したものであります。実際の業績は、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。